片貝新聞

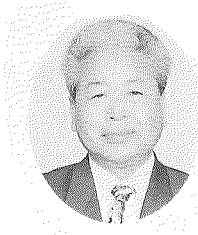
発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱
題字　黒崎敬淥氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

臨時市議会で人事決まる
関広一氏市議会議長に就任
吉原市議は総文副委員長に

市議会の臨時会が去る5月13日に開会され、正副議長を初め、各常任委員長などの人事が行なわれ、関広一議長が誕生した。

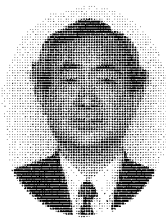
議長選挙は無記名投票で行なわれ、関広一市議16票VS長谷川政一市議8票VS小林光紀市議1票でスンナリ決まった。なお、小林市議に投じられた1票は、光徳と字が間違えられていたと伝えられており、小林市議は関市議を推していたことから、自身で投じた1票でないことは明らか。



片貝からは吉井進吾氏に次ぎ二人目の議長。関市議は七期連続当選のベテラン、これまでに副議長、監査委員、議会運営委員長などの要職は務めていたが、数の論理の前になかなか議長になれずにいた。現在の顔ぶれとなった市議会は、常識を逸脱した市議がいて混乱、このため〝良識派〟が団結して、関市議の手腕を期待して議長に推し、実現した。61歳、町裏、無職、六日町高校出身。

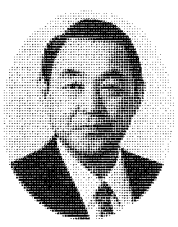
副議長には広川寛一市議（73歳、千谷川1丁目、農業、上組農学校＝現在長岡農業高校）が選ばれた。

片貝出身議員では吉原正幸市議が総務文教副委員長となった。今まで総務文教委員長の小林光紀市議と、社会土木委員長の安達稔市議は、今回はポストを後輩に譲る形となった。

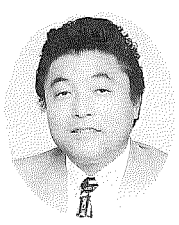


【関広一市議】▽常任委員会＝総務文教委員会

【小林光紀市議】53歳、茶畑、僧侶、当選3回。▽常任委員会＝産業経済委員会、▽その他＝小千谷地域広域事務組合議会委員



【安達稔市議】51歳、八島、農業、当選3回。▽常任委員会＝社会土木委員会、▽その他＝農業委員会



【吉原正幸市議】47歳、高見、農業、当選2回。▽常任委員会＝総務文教委員会副委員長。

主張
佐藤邸の早急解決を望む

四月一日号で佐藤邸の問題も協議会が中心となって動きだし、今年半ばくらいまでに結論が出されるのではないかと期待していたが、どうもいま一枚動きが鈍く、ようやくプロジェクトチームを作ってどうするかを検討するというのだから、本年半ばなどというのは到底無理な話で、ボランテァ活動として佐藤邸の草取りをしようと張り切っていた団体も、急遽旧中学校跡地に変更している。

本来なら佐藤邸を残してほしいという陳情がなされたとき、ある程度の構想を持つべきだが、それは無理としても、同時にそうした行動を起こすのが妥当だったような気もする。今となってはもう遅いが、何年たっても考えてばかりいたのではちっとも先に進まない。大勢の意見を聞くということは一見民主的にも見えるが、皆の衆の意見というのは千差万別であって、そう簡単に結論が出るほど単純ではない。そこで、どう考えを取り纏め、どう収拾するかリーダーの腕の見せ所となってくる。

協議会は予算が無いのでとか、暇がなく専門に打込む担当者がいないなど、色んな問題がありそのどれ一つ取ってみても、大変なことだという理屈は誰もが理解する。しかし片貝で唯一の協議機関としてそうした行動を起こせ、お願いするのは大変としても、町民から金を集めることの出来るのは、この協議会をおいて他にないということも理解してもらわなければならない。いくらボランテァといったところで自ずと限界がある。何の資格も権限も与えられていないものに、そうした点にまで立ち至って行動を起こすことは無理というものだ。

よく町民の話で、もし現在大塚家が残っていればと言われる。豪農といわれ屋敷を公開している所も県内には数多くあるが、歴史にもしはないというものの、もし残っていたとしたら、屋敷の広大さ、樹木や庭園の奥床しさからいっても、他と比較しても一級品である。

残念ながら当時はそうした考えが一般的でなかったのと、戦後の混乱期ということもあって全く跡形もなく潰えたことは惜しみてもあまりある。我々はこの轍を再び繰り返してはならないと思う。規模や時代的にみても大塚家とは比較にならないとしても、豪農の館として書物にも載っている佐藤邸を、何としても家屋を含めて残してほしい。勿論取り壊さなければならない箇所もあるだろう。建物はともかく大庭園としてという声もあったが、お隣り越路町百塚下に造成中の庭園を一度見たらいい。規模からいってもケタが違う。

いまや大正期、昭和の初期のものまで文化財として見なおされる昨今、佐藤邸も充分その価値がある。ここで行動を起こさず孫、子の代になって恨まれることのないよう、一日も早く結論の出るよう、特に協議会の首脳部の一考とリーダーシップに期待する。

故・浅田壮太郎先生を偲ぶ
雪庵忌の会が勉強会

五之町の故・浅田壮太郎先生は、生前「号」を「雪庵」と称したが、昭和57年4月27日に死去した浅田先生を未だ思慕する有志で組織の「雪庵忌の会」（吉原芳郎会長）は、祥月命日の前日の四月二十六日、雪庵忌を営んだ。

今回の出席は十三名。午後二時過ぎ五之町の浅田先生の孫にあたる現当主・浅田道夫さん宅を訪れ、一人ひとりが仏前に焼香。引き続き会場を三好亭に移し、浅田先生の一番弟子と言われる駒谷正雄氏（柏崎市、全国良寛会参与）による講演「浅田先生の思い出」。駒谷氏は「先生はニコンFⅡのカメラを愛用、レンズも数本持っており、良寛会等の会合に出席の際、お供の私がそれを持参したので、私はお抱えの写真屋と間違われた」と笑わしながら、「先生は良寛の複製〝白雲幽石を抱く〟を持っていた。複製ではあるが逸品で、実は先生が中心となり50本限定で作ったものだった。私も欲しいと思っていたところ、先生のお供で三条市での良寛学習会に出席しようとしたところ、三条駅前の骨董屋のウインドウにその複製が掛っていた。浅田先生が絶妙なかけひきで一万五千円で購入してくれた。それを今日持ってきた（写真）」と複製でも逸品という一幅を説明。更に「ある時先生宅を訪ねると、〝白雲幽石を埋む〟という偽物がかかっていた。東京の業者が鑑定依頼してきたもので、先生は東京からわざわざ来てかわいそう、と県内の別の良寛研究家を紹介してやった。後日、先生と私とでその研究家を用事があり訪ねたところ、床の間にその一幅が掛けてあり、箱書き（鑑定のこと）していたとのこと。私は思わず〝それは偽物〟と言おうとしたところ、先生に膝をつねられ痛かった。先生は〝いい表装ですね〟と表装だけを誉めていた。先生は本物、それも、逸品中の逸品でなければ箱書きはしないで、他の研究家に回していた」とユーモアを交えながら語った。

〝学習〟を終え、引き続き浅田先生の思い出話しに花を咲かせながら懇親を深めた。講演会及び懇親会場には、遺影が飾られ清酒「良寛」が供えられていた。

県議補選巡り吉原市議とんだ迷惑こうむる
実情はこんとん

現在、市内は県議補選の候補者を巡ってててんやわんやの茶番劇を演じている。片貝町の吉原正幸市議の名前も一時とり沙汰されていた。

小千谷新聞に「四十代のY市議」「片貝町のY市議」と二回も吉原市議とはっきり分かる書き方で紹介されていた。

吉原市議に直接取材したところ、「私にはその気は全くない。噂が流されたことは知っていた。その人物もその意図も分かっている」と全く気にしていないよう。

小千谷新聞の記者に聞いて見たところ「確かに吉原市議と分かるようにY市議と報道した。あの時点ではまことしやかに噂が飛びかっていた。その出所は分からなかったが、本人から後日聞き、さもありなんと思った。〝選挙戦情報〟であり文中でも〝噂〟と記してあるのだから誤報ではないとのこと。吉原市議にとっては迷惑だったことだけは確か。

それにしても木村一男氏を巡り、山崎晄氏のとった態度が理解出来ない。中野秀光氏、飛田野重美氏の名前も上っており、今後も二転三転する可能性もあり、予断を許さない情勢のようだ。（Y）

今月も集めま～すきょう1日午前9時～リサイクルかたかい

リサイクルかたかいは、きょう1日午前9時から9時半まで、恒例のリサイクル活動を片貝支所前で実施する。空缶（アルミ、スチール分別）、ボロ布、ダンボール、新聞紙（チラシを除くこと）、発泡スチロール（洗って出す）、乾電池など。ゴミ減量と資源の再利用を訴えている。

かたかい春秋

先月の丘陵ウォークは実に楽しかった。自動車の往来も少なく、緑に囲まれたこんないいコースをよく見つけたもの、と感心した人も多かったのではないか。JA片貝町のいたれり尽くせりのサービスぶりにはただただ、感謝するのみだ。あれ程のサービスはいらないから、出来れば来年以降も継続していただきたいものだ。▼先月号の「主張」欄で述べたことが早くも実現した。関広一氏が市議会議長に就任。久々に片貝町から市を代表する要職に着く人が出現したという感じである。それも片貝町の4人の市議全員が、ひとつになっての結果と聞き及び、嬉しさが倍加した。▼市役所の課長の顔ぶれを見ても、片貝の人はたったひとりでいかにも寂しい。数年間ひとりで、その後ゼロが何年か続く状況とのこと。これをもって何かを云々する気は毛頭ないが、何かしら片貝町が置いてけぼりを喰っているように思うのは、小欄だけのひがみであろうか。▼ところで小千谷の政界はどうなっているのであろうか。一部の実力者達によって談合選挙と揶揄されていたかと思えば、デマ情報を意図的に流したり、嘘で塗り固められた手のこんだ芝居を打って人を追い落とそうとしたり、あきれ果てて物も言えぬ状況というではないか。▼政治家、あるいは政治家を目指すものは正義感と信念がなくては話しにならない。その場しのぎに走ったり、後ろ盾となっている民意のことを忘れ、己の利益に右往左往する輩のことは政治家とは言わず、政治屋と言うのである。小千谷は今まさに政治屋が多くはびこっているようだ。市長選も県議選も無競争は断じて良ろしくない、と強く主張する。

山野草展示会賑わう
即売コーナーも完売

片貝町山草会（工藤義里会長）は、山野草展示即売会を5月18日午前9時から午後5時まで、片貝ふるさと会館で開催された。

会場には八重咲イチリン草、ユキワリ草、タカネマツムシ草など会員が丹精こめて育てあげた280鉢がズラリと展示された。町民はもとより長岡を中心に町外からも来場者多数で、500名近くが訪れ賑わった。即売コーナーも人気があり、早々に完売し主催者を喜ばしていた。

さつき展6月8日

片貝さつき盆栽会は6月8日午前9時から午後4時まで、片貝公民館で「さつき展示会」を開催する。

なお午後2時から会員によるせん定等の講習会も予定している。

東京片貝会総会6月29日開催予定
地元市議等が出席

東京片貝会（安部修次会長）は、第38回総会を6月29日午後1時から、東京上野の新潟県人会館で開催する。地元片貝町からは市議や団体長などが出席、地元の情報を提供すると共に親交を深める。

デイホームかたかい新企画
生花教室を開催好評得る
充実強化の一策として、次回は6月19日

デイホームかたかいは、内容の充実強化の一策として、5月15日生花教室を開催した。

補助員の大塚申子さん（一之町）が講師となり、午前の部は川上地区23名、午後の部は川下地区の11名が受講した。大塚さんが「生花をする時の基本」を説明、引き続き各人が自宅の庭から摘んできた花を基本に、大塚さんの指導を受けながら生けた。参加者は「庭の花がちょっと手を加えるだけでこんなに美しくなった。次回も出席したい」と大喜び。大塚さんは「参加者が持ちよる花がそれぞれ違うので、その花に合った生け方を教えたい」とニッコリ。次回の開催は6月19日午前9時から正午まで。

デイホームかたかいでは、6月から登録者全員の健康チェックを行なうことにしている。

JA片貝町が丘陵ウォーク
新緑の中を歩け歩け
老若男女120名が心地よい汗

鮮やかな新緑の中を歩け歩けで、町内外の217名が心地よい汗を流した――JA片貝町主催の第一回片貝丘陵JA健康ウォークが、好天に恵まれた5月11日、片貝中学校グラウンドを出発、越路原―越路原―片貝中の12キロコースで開催された。

急な登りと下りが交互する変化あるコースであったが、乳母車を押す姿、乳児を背負って汗を流す若いお父さん、壮年の夫婦連れ、家族連れ等々老若男女が和気アイアイに歩け歩け。

東谷ではトン汁サービス、ビールやアイスクリーム販売、全員にポカリスウェットを配るなどいたれりつくせりのJA片貝町のサービスに、参加者は大喜び。

ゴールでは完歩証と参加賞が手渡されて再びニッコリ。参加者は「いいコース」「来年も是非開催を」「トン汁はゴールで出してくれたらもっといい」「JA片貝町のサービス満点」など賞賛の声が多かった。

主催者のJA片貝町は「初企画であったが、好天にも恵まれ、予想以上の参加者で、しかも喜んでもらえ大成功だった」とこちらも大喜びの弁。

創立50周年記念で
片貝中マラソン大会

片貝中学校創立50周年記念第7回校内マラソン大会が、5月16日に開催された。当初午後スタートの予定であったが、天気予報が雨と告げていたため、急きょ午前スタートに繰り上げた。今年は50周年記念大会ということで、生徒も教師も力を入れた大会となり、生徒は力走した。各学年5位までにメダルを授与、全員に記録票を手渡した。各学年10位までの入賞者は次のとおり。

▽1年生男子＝①浅田浩紀、②大矢忠幸、③山口直紀、④吉田英、⑤吉原佑、⑥山口洋介、⑦星野浩史、⑧五十嵐恵佑、⑨小宮大典、⑩小野塚文晴

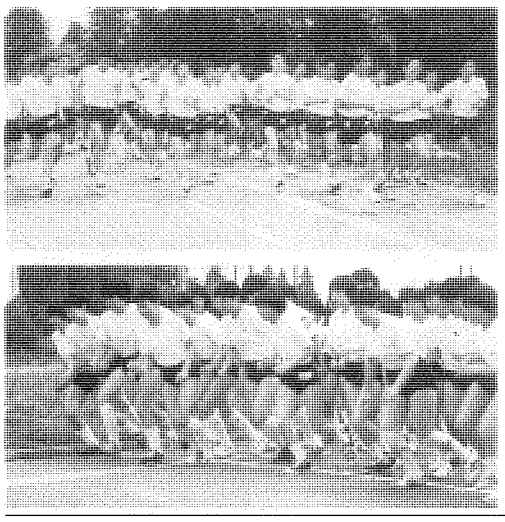
▽1年生女子＝①吉原美香子（学年新）、②小林加奈、③神林友里佳、④本田桃子、⑤高橋里美、⑥佐藤麻衣、⑦黒崎祥子、⑧岡田麻里、⑨安達真由美、⑩芝千秋

▽2年生男子＝①小比田集也（学年新）、②小比田弘樹、③山賀拓真、④目崎慎吾、⑤相崎悟、⑥大矢諭志、⑦浅田和穂、⑧浅田哲一、⑨佐藤佑一、⑩高橋一明

▽2年生女子＝①小野塚愛、②安達奈美、③富田麻衣子、④小林奈美子、⑤神林沙知子、⑥丸山恵三子、⑦藤塚千鶴子、⑧大矢久美子、⑨太刀川佳江、⑩五十嵐真紀

▽3年生男子＝①山賀秀康、②市川淳一、③高橋直希、④渡辺崇、⑤浅田昌俊、⑥安達崇、⑦堀井康文、⑧小宮山和哉、⑨丸山隆宏、⑩南雲卓己

▽3年生女子＝①小林美穂、②高橋麻美、③黒崎奈津子、④石上さつき、⑤芝加奈子、⑥山口美佐子、⑦浅田早紀、⑧丸山奈子、⑨黒崎亜沙子、⑩神林真希子



スーパーボーイズ
バスケの本番能代市へ
成績は2勝1敗で実力示す

片貝ミニバスケットボールスポーツ少年団「片貝スーパーボーイズ」の一行は、ゴールデンウィーク最中の5月3日から5日まで、バスケットボールで全国に名をはせている秋田県能代市で開催された「能代カップミニバスケットボール交流大会」に招待され、強豪相手に2勝1敗と健闘してきた。

大会は4チームによる総当たり戦で行なわれ、片貝スーパーボーイズは、全国大会で活躍している能代チームには歯がたたず29対50で敗退したものの、宮城県長町チームに45対40、宮城県亘理チームに60対14で勝ち実力の程を示した。

大会にはコーチ二名と保護者十八名が同行、子供達は他チームの子供達とすぐに仲よしになり、これからの各地区大会での健闘を誓いあっていた。

寺町12年ぶりの優勝
ゲートボール大会

第13回サントリー文化賞受賞記念ゲートボール大会が、5月12日浅原神社ゲートボール場に13チームが参加して元気よく繰り広げられ、寺町ヤヨイ会が第1回大会以来、実に12年ぶりの優勝を飾った。

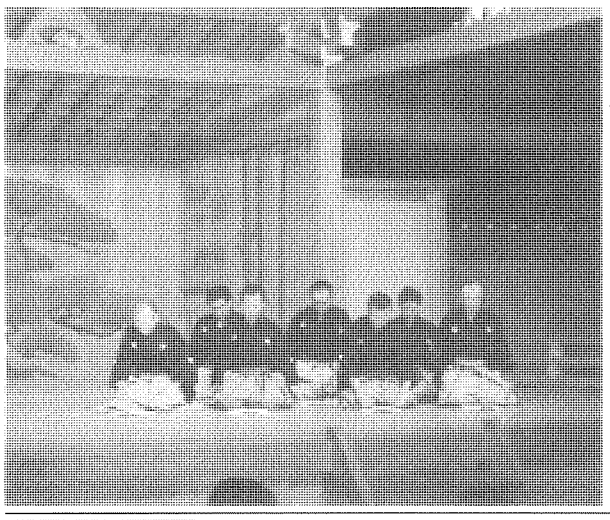
①寺町ヤヨイ会（相崎清一、相崎良雄、五十嵐幸平、小川政利、小林計助、中野卓、小川サワ）、②第5ヤヨイ会、③第2ヤヨイ会、＜敢闘賞＞町裏ヤヨイ会。

江楊会東京で発表
25日、東京の能楽堂で

観世流の皐謡会は四十周年記念大会を、5月25日午前10時から東京の国立能楽堂で開催した。片貝町からは紅楊会（相崎敏代表）のメンバー7名が出演、「船辨慶」を披露した。

現在片貝町には観世流の皐謡会の流れくむ社中は十団体。紅楊会はその中のひとつで20年前に発足、毎週一回相崎代表宅で練習会を行ない、毎年春、夏、秋の三回片貝町合同の発表会に備えている。定期的に東京から師匠の遠藤六郎先生を招き指導を受けている。今回出場のメンバーは次のとおり。

川上義次、高橋正雄、吉田敏明、南波謙一、柳良一、相崎敏、小野塚芳次。



片貝ヒューマンウォッチング
苦労人 岩田片貝小校長

片貝小学校の岩田忠満校長（49）は、愛知県出身、知多半島の漁師町、武豊町で30歳まで過ごした。

家庭が貧しかったとのことで、中学を卒業してすぐに鉄工所に勤めた。18歳の時、高校に通っていた友人と〝物を作るとは何だろう〟というテーマを真剣に話し合った。その時はすぐ結論が出ず、ずっと考えているうちに〝物を作るのは人間だ。だったらその人間を作る教師になりたい〟と思うようになった。それが〝物を作るとは何だろう〟から出て来た結論だった。

一念発起して19歳で夜間高校の門をくぐることになった。24歳で夜間大学に入学、ひたすら教育者を目指して勉学に励んだ。その間の職歴は鉄工所、運送会社、スーパーマーケットなど数々をこなし苦労人であることがうかがえる。18歳の時、真剣に議論した相手の友人も教諭の道を選んでおり、改めて友情の尊さを感じ、その友人に対し感謝しているという。

昭和53年本県の十日町市立水沢小学校に赴任、念願の教員生活のスタートを切った。歳すでに30歳であった。その後はトントン調子に進み、僅か19年目にして校長となり此のほど片貝小学校に初赴任となった。

今までの教員生活の中での思い出は、階段をかけ登るためか、12年目で学級担任をはずされた時はショックだったという。やはり教員は子供達とのふれあいが本分であるとの信念を持っているからであろう。嬉しかったことは、初めて教員になって受け持った教え子が、結婚式に招いてくれ、立派に成長した姿を見れたこと。小学校の担任を招待してくれるのは、極めて珍しいことでは、と感激している。

現在燕市に居を構え、隣の越路町にアパートを借りて単身赴任。家族は奥さんと子供さん二人。

教育信条は「人間的教育」。やれば出来る、子供達には無限の可能性があると信じている。

片貝小学校の印象は、子供達が元気よく笑顔が輝いていること。先生方が児童一人ひとりと接する時間を多く持ち、いじめのない楽しい学校作りを目指したい、と抱負を語っていた。

わんぱく相撲
今年はふるわず

第11回わんぱく相撲小千谷場所が、5月10日市総合体育館武道場で開催された。片貝小学校から二十一名が参加したが、六年生の小野塚昂平君がベスト8に進んだのが最高で入賞者はなかった。学校当局も「今年は完敗です」と語っていた。

6月の読み聞かせ会

▽6月6日午後3時～
▽6月14日午前10時～
▽6月20日午後3時～
※会場はいずれも片貝ふるさと会館

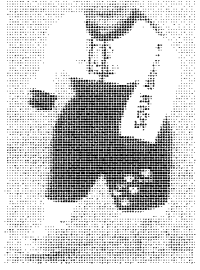
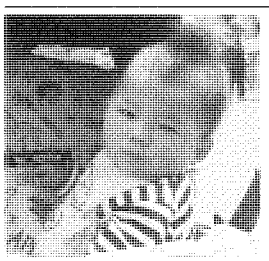
私たち結婚しました

相崎秀人さん（25才）一ノ町
（旧姓中村）**真子**さん（25才）長岡市山田町

Q ご結婚はいつですか
A 平成9年4月12日
Q 出逢いのきっかけは
A 同じ会社に、勤務した時に、知り合いました。
Q プロポーズの場所と言葉
A 5年くらい前に行った旅行先で、「ずーっと一緒にいよう」
Q お互いどんな所が好きですか
A 夫→妻　楽しいところ
妻→夫　優しくて、男らしいところ
Q 子供は何人位ほしいですか
A（夫）5人、（妻）3人
Q どんな夫婦になりたいですか？そのためにどんなことに力を入れていこうと思いますか
A 明るい夫妻であり、決して浮気をしない夫妻になりたい。かくしごとをしないで、信頼し合えるようにしたい。

ハローベイビー

○木曽翔太ちゃん（一之町四区）
パパ **光夫**さん（28才）
ママ **めぐみ**さん（26才）
第一子長男
平成8年6月6日生
現在の体重11kg身長74cm
Q 名前の由来
A いろいろ考えると決まらないので、パパの好きな漢字、未来にはばたく意味合いもかね翔太に決定
Q お子さんの様子
A だれにでも、愛想よくいつもニコニコして、お客様が来ると自分が先に出ていきます。たくさん歩けるようになり、少しもじっとしていないので目を離せません。
Q どんな子に育って欲しいですか
A 元気で心広くおおらかな子に育って欲しい。



○小宮優河ちゃん（一之町五区）
パパ **悦男**さん（29才）
ママ **美恵子**さん（30才）
第一子長男
平成8年6月9日生
現在の体重9kg身長72cm
Q 名前の由来
A お父さんが、釣りが好きで、清く流れる、川のイメージで付けました。
Q お子さんの様子
A ワンワン（犬）が大好きで、犬を見ると「アンアン」と声をかえて喜んでいます。
Q どんな子に育って欲しいですか
A 大河の様に、たくましく、のびのびと育って欲しいです。